

第2回 追浜駅交通結節点事業計画検討会 議事概要

■日時 令和2年11月27日（金）15:00～17:00

■場所 横須賀市役所 消防庁舎4階 災害対策本部
（一部委員は、テレビ会議にて参加）

■出席者

【座長】	東京大学大学院 教授	羽藤 英二
【委員】	横浜国立大学大学院 准教授	野原 卓
	中央大学研究開発機構 准教授	稲垣 具志
	東京理科大学 講師	柳沼 秀樹
	東京大学大学院 特任助教	三浦 詩乃
	京浜急行電鉄（株） 執行役員 鉄道本部 鉄道統括部長	櫻井 和秀 (代理：大塚 祐哉)
	京浜急行電鉄（株） 生活事業創造本部 開発統括部長	島 由紀子
	京浜急行バス（株） 専務取締役 経営企画部長	野村 正人
	神奈川県タクシー協会 横須賀支部 支部長	市川 壽一 (代理：八木 達也)
	日産自動車（株） 渉外部 担当部長	永澤 実 (代理：山本 浩一郎)
	(株)横浜DeNAベイスターズ 事業本部 ホームパークオペレーション担当	箕輪 忠行 (代理：木村 洋太)
	神奈川県 田浦警察署長	原 一夫 (代理：廣山 茂)
	神奈川県 県土整備局 都市部長	関矢 博己
	神奈川県 県土整備局 道路部長	大島 伸生 (代理：山田 直也)
	横須賀市 まちづくり政策担当部長	羽布津 仲雄 (代理：鵜飼 進)
	国土交通省 関東地方整備局 道路部長	高松 諭
	国土交通省 関東地方整備局 横浜国道事務所長	鈴木 祥弘 (※順不同、敬称略)
【事務局】	横須賀市 経営企画部 まちづくり政策課	
	国土交通省 関東地方整備局 横浜国道事務所 調査課	

■欠席者

【委員】	日産自動車（株） 追浜工場 人事総務部長	市川 卓真
	横須賀市 副市長	田中 茂

■議事

- ・ 検討会規約に基づき委員の変更について承認
- ・ 「前回検討会の振り返り」、「バスタプロジェクト検討会での議論」、「追浜駅周辺に必要な機能と施策」、「機能配置の考え方」、「機能配置を具現化するために検討すべき観点」、「今後の検討の進め方」について、事務局より説明し、引き続き具体的内容を議論し、調整していくことを確認。
- ・ 機能配置の考え方については、(案2) 分担型整備の方向で検討を進めていくことを確認。

<委員からの主な意見>

- 利便性の観点では乗降機能は(案1) 集約型整備のように集約していくべきであるが、現実的には空間的な制約がある上、あまり集中すると回遊性、にぎわいが不足するという課題もあるため、駅まち空間として(案2) 分担型配置で整備していくことが望ましい。
- 地域の資源を見出してまちづくりに繋げていく「公・民・学」による取り組みとバスタプロジェクトを結びつけて、エリアのマネジメントを一体的に行う組織(アーバンデザインセンター)を考えても良いのではないか。
- 同一時間帯、同一方向に駅前に集中する車両や人への対応として歩車分離などの検討が必要である。
- Wi-fi センシングなどのデータを活用して、詳細な人の動きを把握し、歩行空間の拡幅量の算定や、MaaS のサービス・運用等に活用してはどうか。
- 交通安全に関連して、例えば駐輪場等の施設配置については、空間の制約だけから考えるのではなく、そこへ到達する歩行者・自転車等の流れを考慮しながら検討しなければならない。
- ユニバーサルデザインは回遊機能のみではなく、すべての機能に関わる概念であり、プロジェクトの設計段階から、その考えを徹底していくことが必要。
- バスは鉄道と比べると「分かりにくい乗り物」と言われる。案内を明確にし、乗り換えをスムーズにするためにも、一体的かつ適切な案内掲示が必要。
- 歩行者は最短距離での移動欲求が強いため、安全性の問題もあるがデッキレベルだけではなく、地上面のアクセスルートを残すべきではないか。
- コロナの影響で人の行動が変わってきている。今後、そうした影響を踏まえた機能・空間の議論が必要。

- 平日・休日・特別な日の使われ方の違い等も踏まえ、同じ場所を時間によって使い方を変えていくような検討が必要ではないか。
- 平時の使い方と災害時の使い方、利用される方の視点を踏まえた施設の配置を検討すべきである。
- 災害時にEV車両からの給電で電気を賄えるよう機能を付加することで、災害に強いまちづくりが出来るのではないか。
- 追浜駅周辺、駅東側だけでなく、駅西側も含めた検討も必要ではないか。
- タクシーの滞留場所と運用方法や、特定車両停留施設とする場合の他地域のタクシーの取り扱いなども考えておく必要があるのではないか。
- 次世代モビリティの導入について、設計段階から考えておく必要がある。

以 上